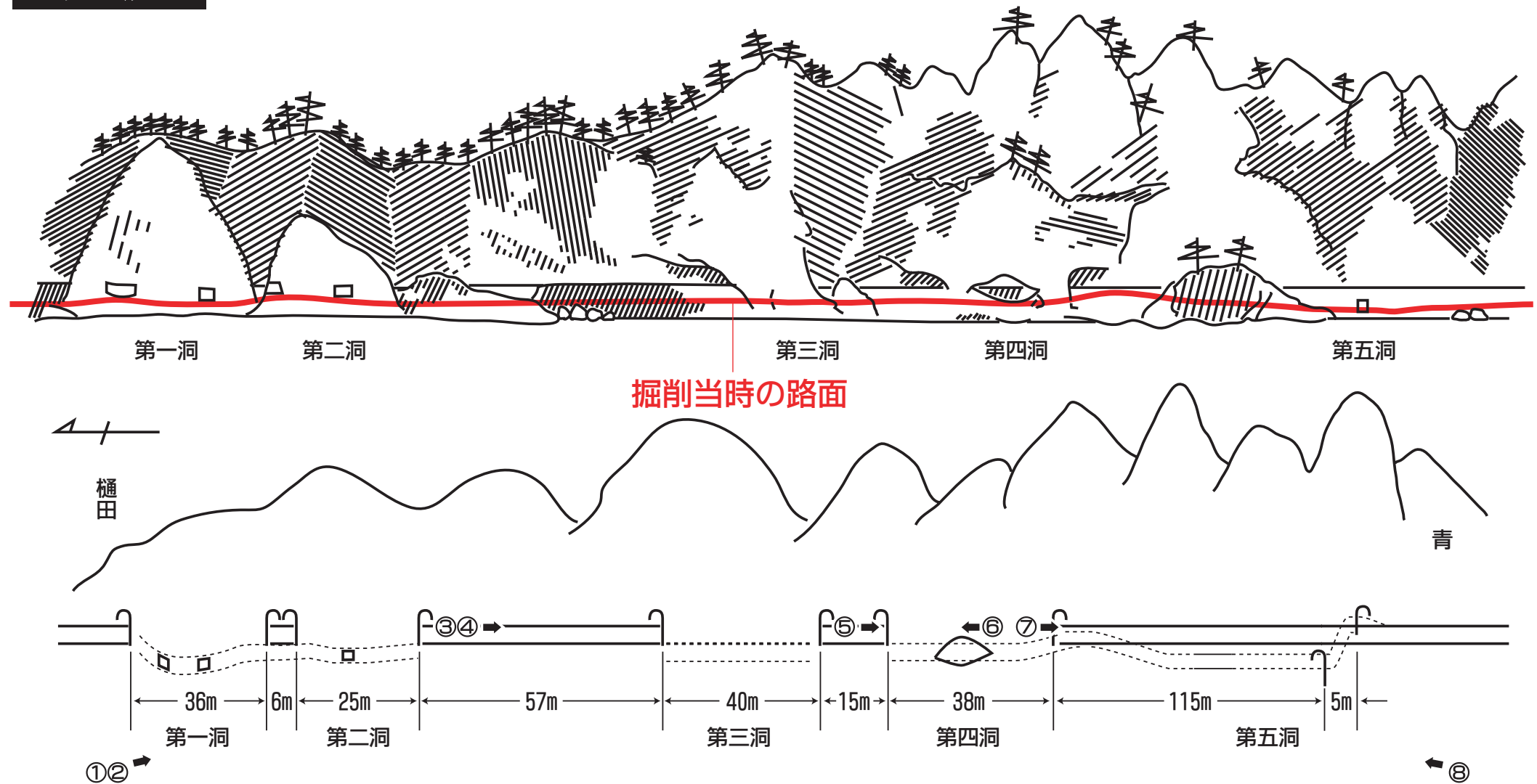


現況



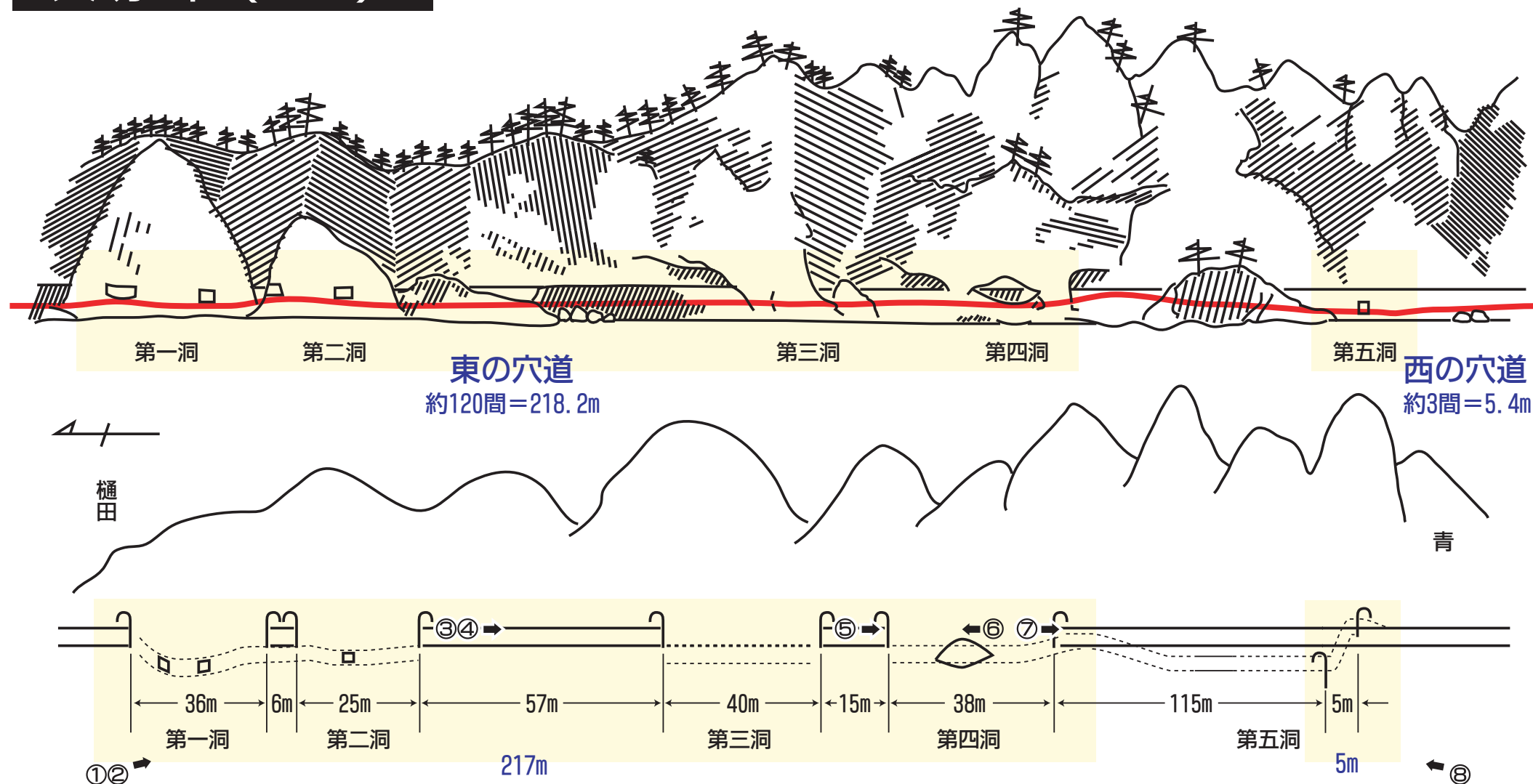
まずは現況から。上図は現在の青の洞門である。中津市教育委員会提供の資料をトレースし、若干の加筆をした。

樋田側から第一洞、第二洞、…、第五洞がある。

このうち第一洞から第四洞までは車が通行できる。明治40年の拡幅によって生まれた車道である。

第五洞は車道の下に埋もれている。禅海和尚が堀鑿した当時の路面は現車道よりも低い所を通っており、それをかさ上げる形で現道が通されたものと推定される。

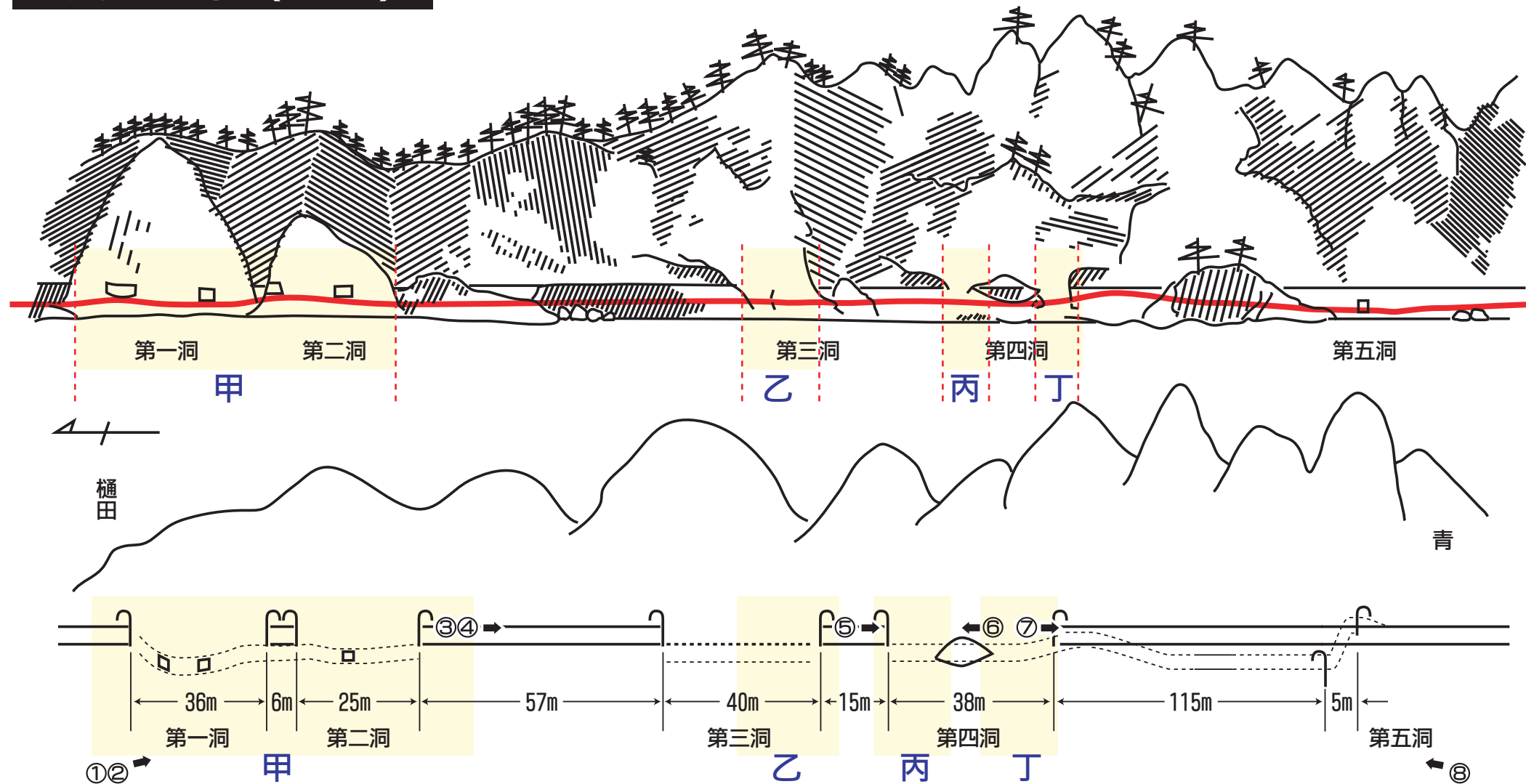
天明3年 (1783)



青の洞門が堀鑿されて40年ほど経過した頃、古川古松軒がこの地を通り、日記『西遊雑記』で次のように描写している。

「今年より四十年以前、江戸浅草辺の六十六部の善海と云ひしもの来りて、山の穿抜やすき事を見、此近郷を勧化し、石工を雇い、**東の穴道百二十余間**、高さ一丈、横幅九尺、所々にあかりとりの窓を明け、通行のなるようにせし道なり。**西の穴道は僅かに三間ばかり**（略）」（『本耶馬溪町史』より引用）
ここでいう「東の穴道」は第一洞～第四洞を、「西の穴道」は第五洞を指すものと思われる。第一洞～第四洞は崖に掘り込まれた道（オーバーハング）で繋がっており、一つの穴道とみなすことができた一方、第四洞～第五洞間は崖際だが頭上を覆うものがなく、第五洞を独立したものと見なせたのだろう。記述にある隧道長は現洞の測定結果を足し合わせたものによく一致する。

明治18年 (1885)

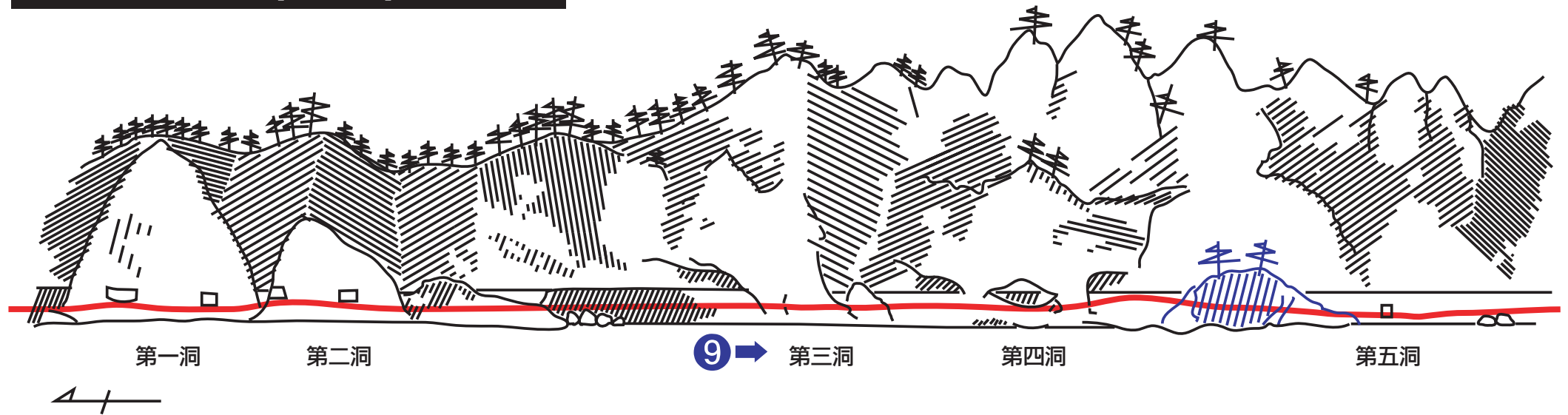


明治18年刊『大分県史 政治部 工業 (大分県史料19・内閣文庫)』に、この頃の隧道のスペックがある。

甲	長47間 (約85.5m)	高1丈 (約3m)	幅8尺 (約2.4m)	寛延3年 (1750) 竣工
乙	長10間 (約18m)	高8尺5寸 (約2.58m)	幅8尺 (約2.4m)	安永3年 (1774) 竣工
丙	長7間 (約12.7m)	高9尺 (約2.73m)	幅8尺 (約2.4m)	竣工年未詳
丁	長9間 (約16.4m)	高7尺5寸 (約2.27m)	幅8尺 (約2.4m)	竣工年未詳

ここであいう甲乙丙丁は上図のような区分ではなかったか。即ちオーバーハング部と第五洞を無視し、純粹にトンネルとなっている所を隧道と見なすと現洞門の測定結果とよく一致する。本編では丁=第五洞か?と書いたが、それよりも妥当だろう。第五洞については次ページの絵葉書も参照されたい。

明治39年（1906）以前



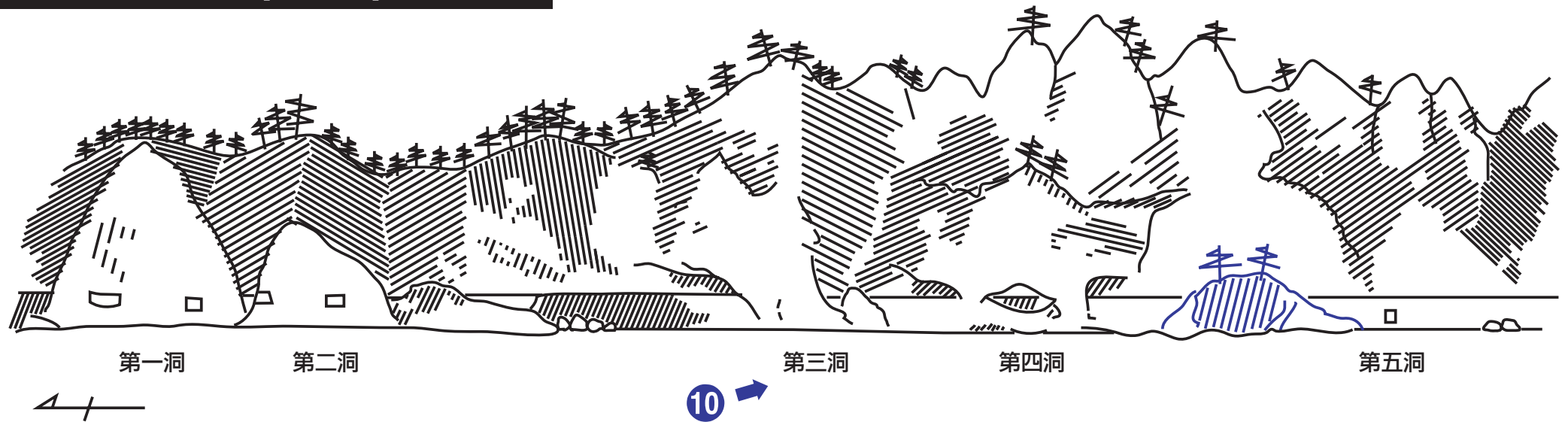
稿了後に右の絵葉書を見つけた。右上に「耶馬溪保勝会発会式記念章」「明治卅九年」の印があり、明治40年の大改修前の姿であることが確実に言える。

この絵葉書は第三洞付近から南を見たもので、矢印の位置に第五洞と思われる坑口を見ることができる。また、この坑口を迂回して道がつけられていることも確認できる。明治18年のスペックも第五洞を無視するとよく一致するので、第五洞は明治初期から使われていなかったと想像することができる。

現地で発見した“旧道”は第四洞と第五洞の間にあった（上図で青く着色したところ）。だが、絵葉書ではこのような岩崖が見られない。明治40年の改修で山側に深く掘り込んだため、山足が取り残されたものと思っていたが、そうだとすると“旧道”に見られたような切り通しは存在しなかったことになる。



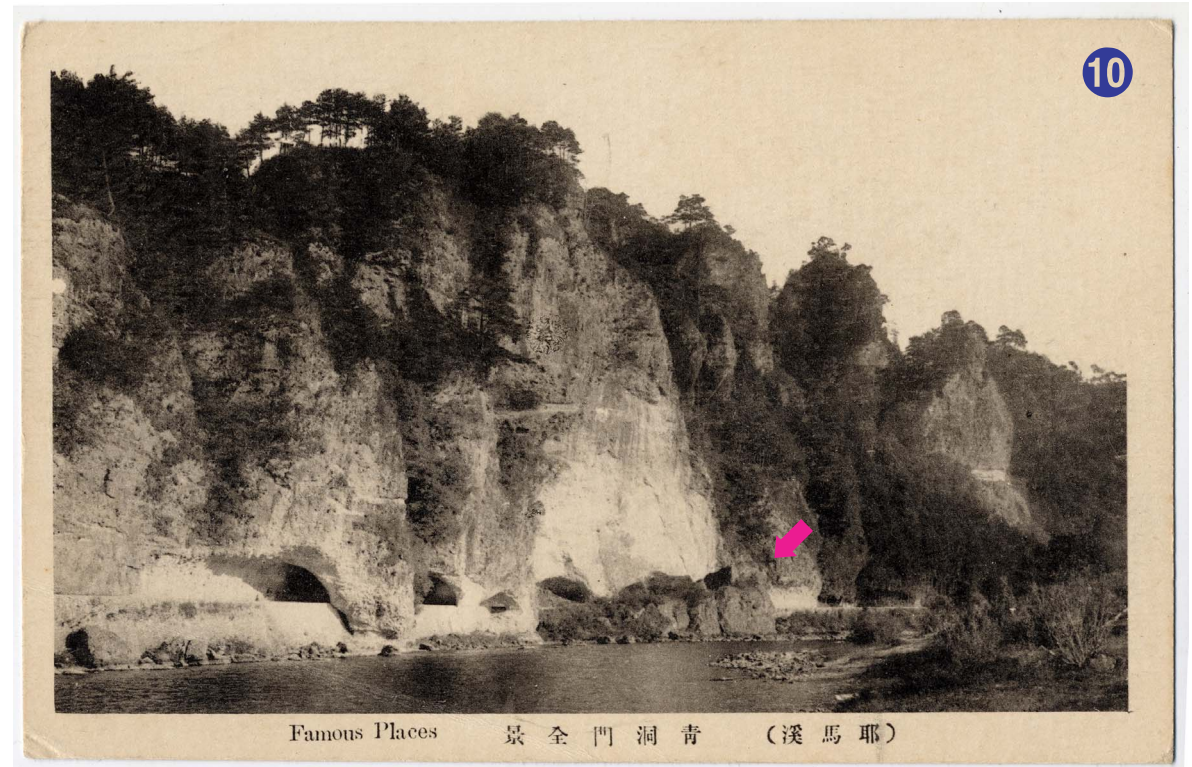
明治40年（1907）以降



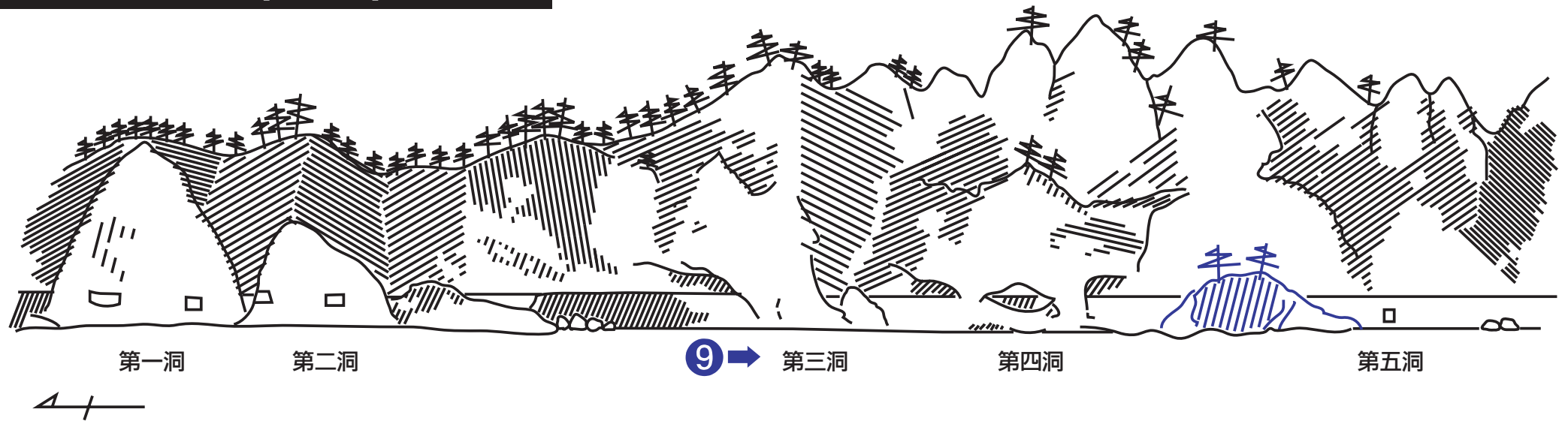
明治40年の大改修後の姿を写したと思われる絵葉書。本編掲載の絵葉書よりも鮮明で、第三洞～第五洞付近がよくわかる。この絵葉書を見ると、“旧道”の辺りに岩山ができ、その背後が広範囲に渡って白くなっているのがわかる。大規模な崩落が発生し、その結果として“旧道”のある岩山が生じたらしい。

この崩落が、明治40年の拡張の際に発生したとは考えにくい。なぜなら“旧道”がその崩落の小山を貫いているからである。絵葉書矢印の位置に四角い岩が写っているが、これが旧道に倒れかかっている岩と思われる（右隅の矢印にマウスをオン）。

以上の状況を矛盾なく説明するシナリオとして、明治40年以前に大崩落が発生し、一時的な迂回路として“旧道”が通され、その後抜本的な対応として明治40年の大改修がなされたという流れが考えられる。この“旧道”に現洞に見られたのと同じ長鑿跡が見られるのもそれで辻褄が合うだろう。そうすると“旧道”は禅海和尚に直結する遺構ではないということになるし、旧第一洞にも同様の鑿跡が残る理由が説明できないが…。



明治40年（1907）以降



あるいは大胆な仮説。前掲絵葉書⑨には崩落した崖の位置に第五洞としたのと同様の黒い空間が写っている。本編で掲げた絵葉書①などでも見ることができる。これが明治20年の改修で作られた新たな隧道で、“旧道”の切り通しはその隧道の崩れたものと推測できないでもない。もしくは古川古松軒のいう「西の穴道」がこちらであるとか……。





(行發園百千万)

KIOSHUHO YABAKEI.

(門洞青) 景全峰秀競 溪馬耶

全景。改修前

青の洞門絵葉書



全景。改修前（絵葉書⑨）



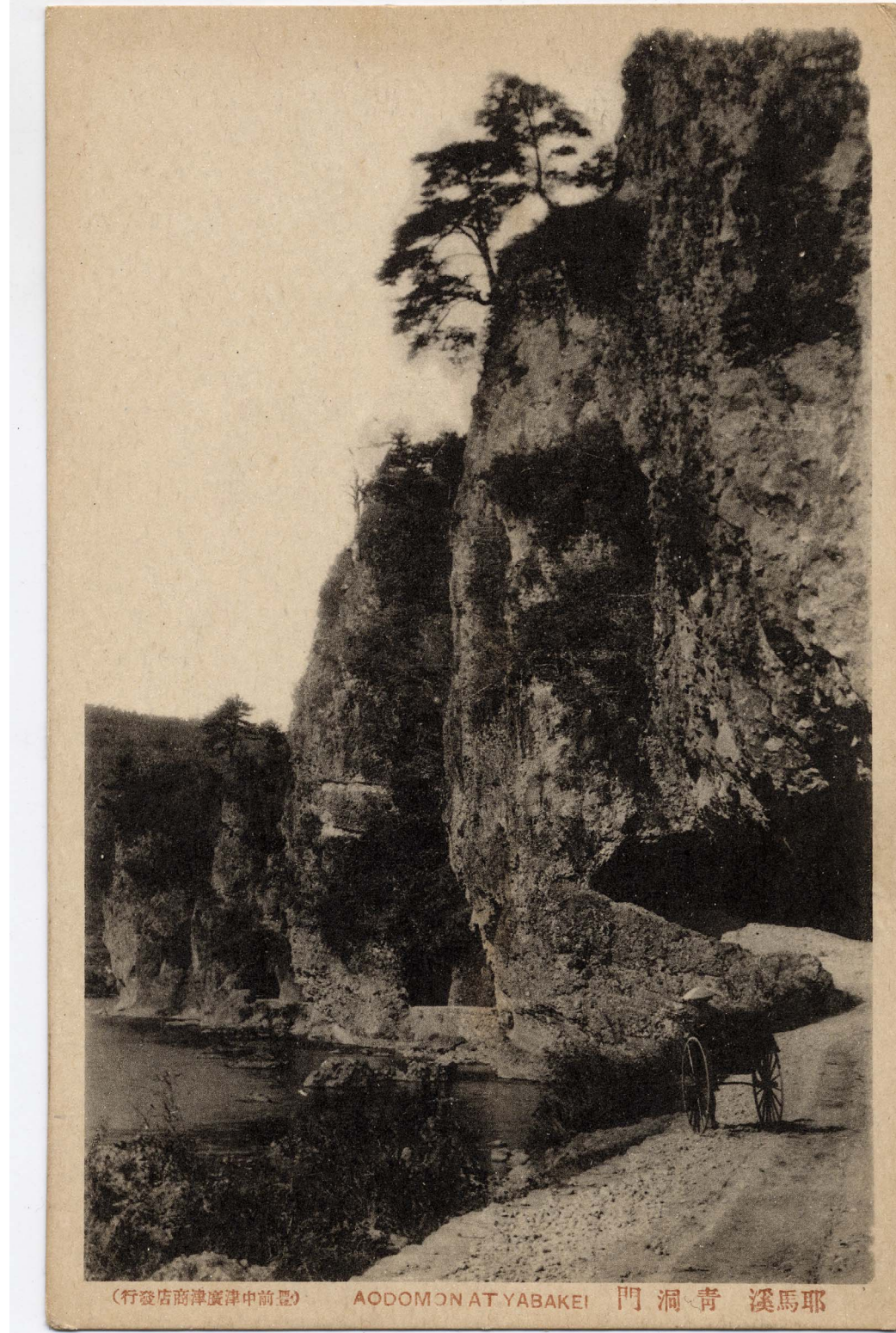
A HOLE OF HIDA, AT YABAKEI.

門洞ノ田樋 溪馬耶



第三洞前から南を見る。改修前

第四洞南口から全景。改修前。第四洞内部が外より高くなっていたことがわかる



(行發店商津廣津中前登)

AODOMON AT YABAKEI

門洞青溪馬耶

青の洞門絵葉書



(行發店商津廣津中前豊)

AODOMONAT YABAKEI

景全門洞青

溪馬耶

全景。改修前



(行發田和)

Poak of kyoshu, at Yabakei.

景全門洞青

溪馬耶

全景。改修後。第二洞の北口とその側面に開いた旧洞の明かり窓がよくわかる

青の洞門絵葉書